

老婆心ながら

～校長からの一言～

匿名性が確保されると人は攻撃的になる！ ～「SNSには書き込まない」「SNSは見ない」が一番～

皆さんも記憶にあると思いますが、昨年５月、リアリティー恋愛番組「テラスハウス」に出演していたプロレスラーの木村花さんが、ネット上でたくさんの誹謗中傷を受け自殺したという悲しい出来事が起きました。

この出来事に関しては、「有名人の自殺」ということで大変大きなニュースになったのですが、このようなSNSでの誹謗中傷による問題は学校現場でも以前より頻繁に起きており、今や中学校の生徒指導の中で最も多く難しい問題になってきていることを知っておいていただきたい。

そこで今回は、なぜこのようなSNSでは他人を誹謗中傷するような書き込みが頻繁に行われてしまうのかを人間の心理面から調べてみました。

その結果、SNSでは一人一人が匿名であるがため、誰かを傷つけることへの心理的なハードルが下がり、行動への責任感が低下してしまいがちになるということが分かりました。これを心理学では『没個性化現象』と呼ぶそうですが、そのように没個性化した状況では、人は攻撃的になるということを実証した興味深い心理実験がありました。それは被験者に対して電気ショックを与えるという実験で、顔が隠れる実験服を着た匿名性を確保したグループと、名札をつけて名前を明らかにしたグループに分け、匿名性と電気ショックを与える時間について調べるというもので、匿名性が確保されていたグループは、そうでなかったグループよりも２倍ほどの時間、電気ショックを与えていたそうです。匿名の書き込みでの誹謗中傷がより強くなってしまうことには、こういった心理が大きく影響しているのでしょう。

コロナ禍の今、ネット環境の必要性が強く叫ばれ、タブレット等の情報通信機器を子どもたちにも一人一台ずつ持たせる時代が来ています。子どもたちに物を持たせることは容易いことですが、気持ちやマナーを持たせることは簡単ではありません。今後、ますますSNSでの誹謗中傷の問題は増えてくることが予想されます。そうならないために学校でももちろんネットマナーに関する指導の充実を図ってまいります。しかし、一番効果的な対策は、家庭で「SNSには書き込まない」「SNSは見ない」を徹底していくことであることを知っておいてください。

我が子を加害者にしないために、また被害者にさせないためにも、SNSの利用の仕方については一度家族で確認してみてください。